

### 御本社東側 玉垣奉賛事業

神山町の当宮御本社東側に玉垣を建立する事業を現在進めております。

この事業はもともと、平成三十年の台風被害で本殿大屋根、稲荷社屋根など、各所に被害が及び、その修復費用等の為にと始められましたが、その後のコロナ禍により、工事の延期が続き、ようやく本年になって取り掛かかれる段取りとなりました。

基本的には当宮の古くからの崇敬者の方々に優先に寄進のご案内致しておりますが、奇しくも本年、当宮主祭神の嵯峨天皇さまが、当地を行幸されましてから一千二百年の慶節に当たる事から、範囲を拡大し、ご希望の方にもご案内をさせて頂く形となりました。

この令和の御代、梅田の大神さまの御神前に名前を残す貴重な機会となります。ご希望の方はご案内をお送りさせて頂きますので、左記事務局まで「玉垣奉賛のご案内を送付下さい」とご連絡下さいませ。追ってご案内をお送りさせて頂きます。

網敷天神社 御本社 玉垣奉賛事業 事務局  
電話 ○六一六三七一一五八六  
メール tunashiki@jinja.jp

### 御旅社の社務について

茶屋町の御旅社ですが、今月二日からの緊急事態宣言の発出に伴いまして、土日の御朱印の授与はすべて書き置きのみとさせて頂いております。また、ご祈祷等につきましては、当宮氏地の方のみとさせて頂き、遠方にお住まいの方につきましては申し訳ございませんが、遠慮頂きますようお願い申し上げます。

なお、今回の第五波とよばれる新型コロナウイルスの感染拡大は、変異株によるものを中心に、感染力が大変高く、今号執筆時点で大阪でも千人を軽く超えそう状況である事から、今後の政府の方針次第では、昨年四月と同様に社務の受付停止も視野に入れております。かかるコロナ禍の苦衷、何卒ご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。

### 森狙仙 没後二百年

当宮の御本社東門から南に三五〇メートルほど行ったところにある西福寺さん。このお寺に今からちょうど二百年前の文政四年七月廿一日(太陽暦一八二二年八月十八日)に亡くなった、江戸時代の大坂を代表する絵師 森狙仙が眠っています。

森狙仙とはどういう人であったかと言うと、もともと絵師の家に生まれ、狩野派に学びましたが、師匠が亡くなったあと、長崎に移って西洋画を学び、活躍していたようです。

ある時、猿を描いてみせたところ、獵師から「これは飼いなされた猿であって、本物の猿ではない」と一笑に付され、おのれの未熟さに気付いた狙仙は、ひとり山奥へ入り、小屋を設けて数年にわたって野生の猿を観察、数千枚の写生を行ったといわれています。

その甲斐あってか、後に猿画の名手として讃えられ、当時、京都第一といわれた絵師の円山応挙も、猿だけは狙仙に勝てないといわれたといわれています。

後年には親族を中心に森派と呼ばれる絵師一派を形成し、大坂の美を牽引しましたが、狙仙亡き後、幕末期の動乱等で、森派は姿を消し、近世浪速の夢の如く、いまは菩提寺である西福寺さんに森家のお墓が残るのみです。

江戸後期の大坂は文化人の多く集まる地であり、北野村とよばれたここ梅田も、多くの文化人が足跡を残しています。残念ながら先の戦争時に大半が焼き尽くされ、記録は散逸してしまいましたが、森狙仙の残した猿画の素晴らしさは今も人々を魅了して止みません。

### 今月の暦

【節気】 立秋(七日)：暦の上では秋となる。この日から残暑処暑(廿三日)：暑さの峠を過ぎる頃。台風特異日

【雑節】 お盆(十三〜十六日)：先祖供養。日本独特のもの

【大安】 八月二日、十二日、十八日、廿四日、廿日

【祝日】 山の日(八日)、休日(九日)

【忌日】 広島原爆忌(六日)、長崎原爆忌(九日)、終戦の日(十五日)

【朔望】 朔月(八日)、上弦(十六日)、満月(廿二日)、下弦(廿日)、

【旬】

- 【野菜】 シシトウ、ナス、トウモロコシ、冬瓜、南瓜
- 【果物】 フドウ、イチジク、スイカ、メロンなど
- 【魚介類】 ハモ、アユ、スルメイカ、キハダマグロ、アワビ
- 【その他】 青葉狩り(登山)、海水浴、ひまわり、朝顔が見頃

### 網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主)

白 江 秀 知